

# おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信) (2020年7月31日)



せんりひじり幼稚園  
副園長 安達かえで



## 「希望」

(子どもたちに救われて)

保護者の皆様には、1学期の間、コロナ感染不安の中子どもたちを支え、力強く送り出してくださいありがとうございました。また、様々な面でご理解ご協力いただき感謝しています。

ホームクラスの子どもたちは夏の保育に入りますが、感染防止に配慮しながら、異年齢の家族のような関係で過ごす夏が充実した日々になるようにしていきたいと思います。

2月末から、コロナ禍の不測の事態に、迷い悩み、決断の日々でした。こんな状況下で自分たちにできることは何か、寝ても覚めても考え続ける日々でしたが、そんな私達を救ってくれたのは子どもたちでした。この状況の中で、予想以上に育った子どもたちの姿が、私達を勇気づけてくれました。

保育参観や七夕祭りができなくなり、お泊まり保育を延期せざるを得ない状況でしたが、(以前も書きましたが)「新たなことを生み出し、なんとかいいものにしていきたい」という思いの強い職員集団であることや、次々にアイデアを出して、わくわくするような新しいことを子どもたちに仕掛けていく保育者たちであることも救いでした。

年長組では、お泊まり保育のための話し合いの時間を、他のプロジェクトに変えていきました。この時期、自分たちのやりたいことをクラスで実現するために話し合っって企画しようとする心が芽生えますので、それぞれのクラスで興味のあることを発展させていました。七夕の流れで、「おまつり」を企画したクラスは、年中少組さんが楽しめるような催しを考え、祭りの手作り衣装を着て小さい子達を案内していました。どんな役割が必要かも自分たちで考



え、受付の係、遊びの説明の係、消毒の係、案内の係を生き生きと運営していました。ホールで七夕パーティーを企画したクラスは、司会の子の「オープン!」の合図で幕が開くと、「パンパン」と手作り楽器の花火の音と共に、絵の具で描いた見事な打ち上げ花火が上がるという演出を見せてくれました。また、七夕の願い事が叶うように短冊を燃やしたいという思い

いで、中庭で火起こしをしているクラスもありました。何度も火種を付ける練習をして、風で火が消えないようにブロックで囲ったり、火が付しやすい枝を選んだり、試行錯誤していました。最後にはいい火加減



の中で、マシュマロパーティーを楽しんでいました。子どもがすっぴり入る巨大シャボン玉を作りたいと考えたクラスは、液や輪っか、液の含ませ方、そして輪を上げていく角度やスピードまで試行錯誤し、見事に大成功していました。



パラバルーンでテントを作って、カレーを作り、キャンプ気分を味わうクラスもありました。能勢の梅で作った梅シロップで、ジュース屋さんをして年少組に振る舞ったり、様々なシロップを試しながらかき氷屋さん



んをしたりと、衛生面に気配りしながら自分の役割を生き生きと果たしている子どもたちに、目に見えて自信が育っていくのを感じました。年少組はそんなお兄ちゃんお姉ちゃんに甘えて、年中組は憧れて真似をし、年長組は自分たちでこの幼稚園を楽しくしていきたいという勢いさえ感じる7月末



でした。コロナ禍で、変更を余儀なくされたことが、主体性や自信という未来への力を育てるきっかけになったことは嬉しいことです。

子どもたちのおかげで、予測不可能なこれからも、怖がらずに変化して行けそうですね。

夏休み中、お体に気を付けてお過ごしください。\_ 休み中の相談はここへ [kaede@hijiri.ed.jp](mailto:kaede@hijiri.ed.jp)